

地方創生推進交付金 事業説明資料  
(令和元年度実施分)



# 地域しごと支援センターちば事業

実績額 23,740 千円（うち交付金 11,870 千円）

## 1 事業の目的・概要

地域が必要とする人材を県外から呼び込むとともに、地元人材の県内就職による労働力確保を図るため、県外からの転職希望者や若年者等に対して、電話や面談による個別相談や職業紹介を行ったほか、県内中小企業との交流イベント等を実施し、県内での就職促進を図った。

## 2 事業の内容

### (1) 個別相談

#### ○随時相談

千葉県ジョブサポートセンター（千葉市中央区）内に「地域しごと支援センターちば」を設置し、県外からの転職希望者等への相談に対応するスタッフを配置。

受付：月～金 9時～17時 土 10時～17時

（H30.8月より第2・第4土は休館）

〈R1 年度実績〉  
地域しごと支援センターちば相談実績 201 名



センター窓口での個別相談対応

#### ○相談ブース等出展による出張相談

就職支援協定締結大学※等における就職相談会 等

#### ※ 就職支援協定締結大学

（県外大学との「就職支援に関する協定」の締結）

学生の県内企業への就職・定着を促す環境の整備に向け、県と大学が相互に連携・協力し、学生の本県への就職や地元定着の促進を目的とする協定を平成31年3月に県が12大学と締結。

〈R1 年度実績〉  
相談ブース等出展（28回）利用実績 143 名

### (2) イベント

開催日	イベント名	R1 年度 利用者実績
10月19日	ふるさと暮らしセミナー 「はたらく×くらす ちょうどいい千葉 千葉の魅力発信セミナー」	16名
11月7日	県外大学と県内企業との合同面談会	— 〔参加数 ・大学：14校 ・企業：30社〕
12月14日	就労応援女子カフェ	7名
3月4日・5日	合同企業説明会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。 ※代替措置として、当日参加者に配布予定であった 出展企業紹介ガイドブックを、「千葉県地域しごと NAV I」に掲載。	—
合 計		23名

事業名	「地域しごと支援センターちば」事業	
担当課	商工労働部雇用労働課	
総合戦略記載箇所	大項目：(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり 中項目：②居住地として選ばれる千葉づくり	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指 標 名	実績値	目標値
地域しごと支援センター利用者数	367 人	200 人
<b>【事業効果の判定】</b>		
① <b>地方創生に非常に効果的であった</b> (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
② <b>地方創生に相当程度効果があった</b> (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③ <b>地方創生に効果があった</b> (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④ <b>地方創生に対して効果がなかった</b> (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、目標値を上回る利用者があり、大いに成果があったが、令和元年度が終期となっていることから、関連事業を円滑に引継ぎ、効率的・効果的に事業展開を行う必要がある。</li> <li>・今後も少子高齢化が進むと見込まれる中、地域が必要とする人材を県外から呼び込むこと、地元人材の県内就職の促進を図るなど本県の将来を担う人材の確保に取り組む必要がある。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層への就労支援はジョブカフェちばが引き継ぎ、地域しごと支援センター事業の成果を活かし、県外に就学する学生等を対象とした相談や県内企業との交流イベント等を実施する。</li> <li>・また、県外からの転職希望者に対する就労支援については、生活相談などきめ細かな支援を行う、千葉県ジョブサポートセンターにおいて、個別相談を実施する。</li> </ul>		

# ちば新農業人サポート事業

実績額 12,446 千円（うち交付金 6,223 千円）

## 1 事業の目的・概要

新規就農希望者に対し、ワンストップでの相談窓口を設置して円滑な就農を支援するとともに、研修会や交流会を通じて、農業技術・知識の習得や、地域の農家・新規就農者同士の交流を促し、地域農業の担い手としての定着・育成を図った。

## 2 事業の内容

### (1) 新規就農相談センターの設置

新規参入希望者が、千葉県での就農に関する様々なアドバイスを受けられるよう、県内 13 箇所にて新規就農相談センターを設置した。

また、青年農業者等育成センター（千葉県園芸協会）を設置し、就農相談対応や無料職業紹介を行うほか、農林水産就業相談会や県域での新規就農者の交流会を開催した。

〈R1 年度実績〉

就農相談件数：724 件

農林水産就業相談会（令和元年 11 月 23 日（土）、来場者：50 名）

農業法人等就業相談会（令和元年 8 月 3 日（土）、来場者：54 名、出展：17 経営体）



農林水産就業相談会の様子

### (2) 農家後継ぎ等就農促進

県内の高校生等を対象に、地域における先進的な経営事例や先輩農家を紹介することにより、農業の魅力や PR し、就農意欲の向上を促した。

〈R1 年度実績〉 参加者：延べ 399 名

### (3) いきいき帰農者研修

定年退職者や U ターンの就農希望者に対し、就農をサポートするための研修を実施した。

〈R1 年度実績〉 対象者：82 名



千葉県新規就農者交流会の様子

### (4) 新規参入者定着支援

新規参入者を対象とした地域別の研修会や交流会を実施し、地域の指導農業士、農業士、先輩新規参入者等から栽培技術や経営に関する助言をもらうとともに、新規参入者同士の交流を促進することにより、定着を図った。

〈R1 年度実績〉

開催：15 回（県域 1 回、地区別 14 回）

（うち県域）千葉県新規就農者交流会（令和 2 年 2 月 18 日（火）、参加者 31 名）

事業名	ちば新農業人サポート事業	
担当課	農林水産部担い手支援課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指標名	実績値	目標値
新規就農者数	317名	450名
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった(例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった(例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった(例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった(例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合)		
<b>【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他産業の就業環境が改善し、担い手確保が競合したため、新規就農者が減少している。</li> <li>・近年増加傾向の農外からの参入者やUターン、定年帰農者等様々な経歴の新規就農者・就農希望者がいるため、農業の魅力をもっとPRするとともに年代や経験に応じた研修を行い、就農・定着に繋げる必要がある。</li> <li>・新規参入者のなかには地縁がないため地域で孤立し、定着が危ぶまれる者がいる。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和2年度に向けた取組の修正・改善))</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農相談センターでのきめ細やかな相談対応や就農相談会等で先輩就農者の体験発表の場を設け、農業の魅力について引き続きPRする。</li> <li>・高校生等の若年層に対しては、農業への理解を深め、職業選択の一つとしてもらえるよう地域の生産者との交流や農家派遣実習等を実施する。定年帰農者等を対象とした研修では、地域の特産品目等での講義、実習を通じて、地域の担い手の確保・育成を図る。</li> <li>・新規参入者に対しては交流会の開催や組織活動、地域活動への参加を促し、地域ぐるみで担い手の育成が図れるようにする。</li> </ul>		

# 地域で育てる新農業人研修事業

実績額 1,800 千円 (うち交付金 900 千円)

## 1 事業の目的・概要

指導農業士等の先進農家や市町村等が設ける実践農場で新規就農希望者を研修生として受け入れ、研修から就農まで地域ぐるみで一貫した支援をすることで、確実な就農と定着を図った。

## 2 事業の内容

### (1) 新農業人・実践農場研修モデル事業

農協が設置した実践農場で新規就農希望者を研修生として受け入れ、地域の関係機関が連携して、技術習得から農地の確保、就農後の営農まで一貫して支援をすることで、新規就農希望者の円滑な就農・定着に繋がった。

〈R1 年度実績〉

研修生数：6 名

研修受入機関及び品目：君津市農業協同組合（カラー、メロン、トマト、インゲン、イチゴ）



研修生（左）と指導農家（右）

（栽培ほ場でマンツーマンの実践的な研修を受けています）

### (2) プロ農家育成インターンシップ事業

新規就農希望者を研修生として受け入れて実践的な指導と就農支援を行う県内先進農家を登録し、農業事務所がマッチングを行うことで、新規就農希望者の円滑な研修と就農を支援した。

〈R1 年度実績〉

研修生数：5 名

品目：露地野菜(多品目)、施設野菜(イチゴ)、露地果樹 (なし)

研修地：八街市、東金市、山武市、大網白里市、いすみ市

事業名	地域で育てる新農業人研修事業	
担当課	農林水産部担い手支援課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指 標 名	実績値	目標値
新規就農者数	317 名	450 名
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった(例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった(例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった(例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった(例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
<b>【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他産業の就業環境が改善し、担い手確保が競合したため、新規就農者が減少している。</li> <li>・担い手の高齢化に伴い、新規参入者受入れ体制を整える産地が現れ始めているが、研修地が限定的であるため、希望する地域・品目で研修が受け難い新規就農者もいる。</li> <li>・新規参入者は地縁がないため、地域で孤立することがある。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和2年度に向けた取組の修正・改善))</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちば新農業人サポート事業を活用し、農業の魅力をPRする。</li> <li>・受入れ体制を整えた県内外の先進地域の紹介等を実施し、農業者、関係機関が一体となった新規参入者受入れ体制の整備を促し、就農希望者のニーズに応えられるよう、県内各地で研修受入を可能にする。</li> <li>・研修希望者と受入先とのマッチングを行い、研修から就農後まで地域から一貫した支援が受けられるようにし、新規参入者が孤立しないように支援する。</li> </ul>		

# 空き公共施設等を活用した企業進出支援事業

実績額 15,620 千円（うち交付金 7,810 千円）

## 1 事業の目的・概要

県北東部から南部地域では、少子高齢化や過疎化等により、今後も人口減少が見込まれるとともに企業の立地が進みにくい地域であることから、地方創生による地域活性化を図ることは重要な課題となっている。

このような地域で増加傾向にある小学校や幼稚園などの空き公共施設のほか空き家や空き店舗を活用し、地元市町村や金融機関、地元大学等と連携しながら企業誘致を図ることで地域経済の活性化を図る。

## 2 事業の内容

### (1) 進出可能性のある企業と市町村とのマッチング

- ・企業と市町村のマッチング件数：171 件
- ・空き公共施設への企業進出件数：6 件 5 市町村  
市町村別件数内訳：南房総市 2 件、九十九里町 1 件、長生村 1 件、君津市 1 件、銚子市 1 件

### (2) 空き公共施設等活用フォーラムの開催

- ・令和 2 年 1 月 23 日（木）千葉銀行本店 3 階大ホール  
参加企業：46 社 ブース出展市区町：11 市区町

### (3) 空き公共施設等視察バスツアーの実施

- ・第 1 回「中房総ツアー」：令和元年 11 月 8 日（金）  
視察先：いすみ市、長南町、市原市 参加企業等：16 社
- ・第 2 回「北総ツアー」：令和元年 11 月 26 日（火）  
視察先：銚子市、東庄町、香取市 参加企業等：25 社

### (4) コンソーシアム構築支援業務

- ・勝浦市：立地企業の運営施設（旧小学校）の周知を行い稼働率の底上げを支援
- ・香取市：金融機関や産業振興センターなどとのネットワーク構築支援
- ・いすみ市：産学金官の会議にて参加者との意見交換による情報共有の実施



空き公共施設等活用フォーラム



空き公共施設等視察バスツアー  
中房総ツアー（いすみ市）



コンソーシアムの  
連携イメージ

事業名	空き公共施設等を活用した企業進出支援事業	
担当課	商工労働部企業立地課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：①地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指 標 名	実績値	目標値
空き公共施設等への進出企業数	6 件	5 件
企業と市町村とのマッチング件数	171 件	100 件
<b>【事業効果の判定】</b>		
<b>①地方創生に非常に効果的であった</b> (例:全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) <b>②地方創生に相当程度効果があった</b> (例:一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) <b>③地方創生に効果があった</b> (例:KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) <b>④地方創生に対して効果がなかった</b> (例:KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したと言えないような場合)		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの作成やHP掲載、機関誌への掲載等により十分な事前周知を行ったほか、連携する市町村のブース出展によりフォーラムを通じて多くのマッチングを創出した。</li> <li>・地域の紹介を含めたわかりやすい資料や市町村担当者の的確なPRにより、マッチングを契機としてその後の現地視察や、実際の企業進出に繋がる案件が創出された。</li> <li>・一方で、希望する地域に空き公共施設の登録がないケースや、空き公共施設の規模や貸付条件等の面においてニーズに合致しない案件も複数あった。</li> <li>・マッチングを重ねるものの、企業ニーズに合致しないことにより企業進出まで至らない、あるいは、企業誘致のノウハウ不足等により企業ニーズが把握できないといった課題を抱えている市町村もある。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もより多くの企業と市町村とのマッチング機会を多く創出するため、アンケートの実施等により進出可能性のある企業の発掘に努める。</li> <li>・市町村における空き公共施設の活用に係る合意形成に協力することで、受け入れ可能な空き公共施設の掘り起こしを行い、企業の幅広いニーズに対応する。</li> <li>・企業情報を保有する金融機関や中小企業支援機関などの関係機関を公募やサウンディングの際に紹介するなど、各市町村における自発的な誘致活動の底上げを図る。</li> </ul>		

# ちば起業家応援事業

実績額 16,700 千円（うち交付金 8,350 千円）

## 1 事業の目的・概要

本県では、高齢化が他の都道府県と比較して急速に進み、既存の中小企業、特に地方部における小規模事業者が加速度的に減少することが予想される。

就業機会を求める若年層や働く世代の県外への流出を防ぎ、地域の活性化につなげるため、女性・若者・シニア等の新たな発想による起業を促進する方策として、起業機運の醸成・啓発から優秀な起業家の発掘・育成、実際の起業に向けた人脈形成や販路開拓等の経営サポートまで、一貫した支援を行う。

## 2 事業の内容

### (1) ビジネスプラン・コンペティション

県内の様々なニーズに対応した、新たな発想・手法による起業を積極的に応援するため、本県の課題解決につながるビジネスアイデア・プランを広く募集し、応募者に対するプレゼン指導等の支援を提供しながら、評価・表彰をした。

〈R元年度実績〉応募総数：68件

ビジコン応募用紙



### (2) 起業家交流会

地元起業家が事業に懸ける想いを語るプレゼンや、来場者同士の交流等、顔の見えるビジネスマッチングの機会を提供する交流会を開催した。

〈R元年度実績〉開催回数：5か所、参加者数：延べ580名

### (3) 起業家応援イベント

地域を超えて起業家を応援する大規模イベントとして、「ビジネスプラン・コンペティション」のファイナリストによる最終プレゼン・最終審査と表彰式を実施するとともに、起業家や支援者、創業支援事業者等との交流会、起業家に役立つセミナー、相談ブース設置等を実施することで、より広く起業について周知し、起業意欲の増進を図りながら、地域を超えたビジネスマッチングの機会を提供した。

〈R元年度実績〉参加者数：延べ2,500名



### (4) フォローアップ支援等

「ビジネスプラン・コンペティション」等で発掘した優秀な起業家や起業予定者に対し、実際に起業する際や起業した事業を軌道に乗せる際に必要な知識・ノウハウについてアドバイスを行う専門家を派遣した。〈R元年度実績〉派遣企業数：3社

過去の起業家応援事業の関係者等に対し、実践的な知識、ノウハウの取得を図ることを目的として、営業販売・販売ノウハウ、事業計画の策定等を図ることを目的とし、全3回のスキルアップ研修を実施した。

〈R元年度実績〉参加者数：132名

また、各地域での「起業家交流会」前に、交流会でプレゼンを行うプレゼンターを集め、ビジコン内容のブラッシュアップ会を実施した。交流会の参加満足度：満足度93%（アンケート回答者のうち9割以上が「満足」又は「やや満足」と回答。）

(5) 情報発信

県内で実績のある起業家の事例集を作成した。

〈R元年度実績〉配付部数：1万部

また、起業家や起業予定者に向け、起業機運を高めるコンテンツ、事例集に掲載された起業家についての情報、当事業や公的支援機関等での支援情報・施策案内などを、ホームページや SNS 等を使い、効果的に発信した。

〈R元年度実績〉ちば起業家応援事業 Facebook アカウントへのいいね件数：1,759件

(R2.3.31時点)

事業名	ちば起業家応援事業	
担当課	商工労働部経営支援課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：①地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進	
<b>【本事業における重要業績評価指標 (KPI)】</b>		
指標名	実績値	目標値
起業家応援イベントの参加者数	2,500人	2,500人
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合)		
<b>【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題)</b>		
・「起業家交流会」については、起業家交流会を過去39回開催したため、県内市町村の多くで起業家交流会のノウハウが浸透されていると考えられるが、単独で主体的に企画・運営を行うことが難しい人口規模の小さな自治体では開催されにくい傾向がある。		
<b>【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和元年度に向けた取組の修正・改善))</b>		
・「起業家交流会」において実施するビジネスプラン発表会で最多得票を得たプレゼンターは、「ビジネスプラン・コンペティション」の一次審査通過の特典を付与し、併せて「ビジネスプラン・コンペティション」への応募を促すなど、興味関心を惹くための周知方法や、応募方法の見直しを行う。また、これまでの創業支援に加え、事業承継を活用した第二創業等の啓発、支援を実施する。		
・起業家交流会の開催に意欲のある地域を中心に、対象地域を広域として開催をすることで近隣市町村へも効果が波及するように努める。		

# プロフェッショナル人材戦略拠点事業

実績額 37,916 千円（うち交付金 18,958 千円）

## 1 事業の目的・概要

優れた経験値を持つプロフェッショナル人材の地方への還流を促し、地域経済の活性化を図るため、潜在成長力のある地域企業の経営者に、新商品開発や新販路拡大などの「攻めの経営」への転身を促し、その成長戦略の実現のため必要となるプロフェッショナル人材の採用を支援する。

## 2 事業の内容

### (1) 拠点の設置・運営

(公財) 千葉県産業振興センター（千葉市美浜区）内に「千葉県プロフェッショナル人材戦略拠点」を設置し、拠点運営を行う。

### (2) 企業への訪問・相談等

地域金融機関、中小企業支援団体等と連携し、成長が期待される企業に個別に訪問し、経営者に「攻めの経営」と新たな事業展開を促すことで、プロフェッショナル人材に対する有望かつ明確なニーズを発掘し、人材ビジネス事業者に取り繋ぐ。

また、都市部大企業等の連携強化による多様なプロフェッショナル人材の還流ルートの開拓など、地方創生の実現に当たって必要となる新たな業態への人材面の支援を進める。

### (3) 地域版プロフェッショナル人材戦略協議会の開催

目的：関係者間の連携を強化し、事業を浸透させ、効果的なものとしていく観点から、協議会を設置・運営する。

※協議会構成員（金融機関、中小企業支援機関、民間人材ビジネス事業者等）

〈R1 年度実績〉年 3 回開催

### (4) 中小企業経営者向けセミナー

目的：地域の中小企業を対象に、企業の成長戦略とプロフェッショナル人材の必要性について、経営者のマインドを醸成する。

〈R1 年度実績〉年 4 回開催 参加人数 119 名



経営者向けセミナー

### (5) 大企業連携のための交流マッチング会

目的：大企業等の連携を図るため、副業・兼業を含めた多様な人材の還流ルートにつなげることを目的に、プロフェッショナル人材を必要とする中小企業と大企業との交流を深める。

〈R1 年度実績〉年 1 回開催 参加人数 14 名

事業名	プロフェッショナル人材戦略拠点事業	
担当課	商工労働部雇用労働課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：⑤中小企業の活性化支援	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指 標 名	実績値	目標値
中小企業の相談件数 (経営者との人材・経営等に関する相談件数)	231 件	200 件
プロフェッショナル人材の 県内中小企業における正規雇用件数	97 件	15 件
<b>【事業効果の判定】</b>		
<p>①<b>地方創生に非常に効果的であった</b>(例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>②<b>地方創生に相当程度効果があった</b>(例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>③<b>地方創生に効果があった</b>(例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>④<b>地方創生に対して効果がなかった</b>(例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)</p>		
<b>【要因・課題】(取組推進に当たったの問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点の利用企業は、地方銀行から紹介される比較的規模の大きい企業が多いなど偏りも生じていることから、利用企業の裾野を広げていく必要がある。</li> <li>・働き方の多様化に対応した、プロフェッショナル人材を新たな地方還流ルートにつなげる取組が必要である。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和2年度に向けた取組の修正・改善))</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在成長力のある企業を更に幅広く掘り起こすため、関係機関と積極的に連携し、企業情報を収集する。</li> <li>・企業訪問や企業向けセミナー等を通じ、副業・兼業人材の活用など多様な形態での人材マッチング支援を進めるとともに、都市部大企業とも連携した人材交流を進めていく。</li> </ul>		

# 果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業

実績額 8,567千円（うち交付金4,284千円）

## 1 事業の目的・概要

安房地域で栽培が盛んな「びわ」・「かんきつ」は、主に傾斜地で栽培され、作業性が悪く、また重労働であることから、担い手確保が難しく、高齢化と放棄園の増加等による産地縮小が懸念されている。

このため、優良圃場の流動化に向けたアンケートやドローンによる圃場カタログの作成を行った。また、びわ低樹高栽培や中晩柑柑橘等のモデル圃場も設置するとともに、台風被災後の復興に向けた新技術・新品目導入も進め、地域活性化を図った。

さらに、観光客等の交流人口を増やすため、南房総ならではの新たな体験メニューを開発し、受入体制の充実などのノウハウを蓄積するためモニターツアーを実施した。

## 2 事業の内容

### (1) 果樹（びわ・かんきつ）再生協議会の運営

#### ア びわ再生協議会の活動

「びわ振興方針（平成30年3月）」に基づき、圃場流動化に向けた圃場のカタログ化を行うとともに、低樹高栽培・自然災害対策モデル実証圃場の設置を行った。

〈令和元年度実績〉

圃場流動化に関するアンケート：67/68戸

圃場カタログの作成：1件

施設びわ低樹高栽培モデル実証圃場の設置：2圃場

自然災害対策モデル実証圃場の設置：5圃場

#### イ かんきつ再生協議会の活動

「かんきつ振興方針（平成30年3月）」に基づき、圃場流動化に向けた圃場のカタログ化を行うとともに、新技術・新品目のモデル実証圃場の設置を行った。

〈令和元年度実績〉

圃場流動化に関するアンケート：40/76戸

圃場カタログの作成：1件

流動化に向けた座談会の開催：1回

観光みかん狩り園における新技術栽培モデル実証圃場の設置：1圃場

新品目レモンの栽培モデルの検討：7圃場

### (2) 南房総地域の交流促進事業（モニターツアー等の実施）

#### ア 南房総ならではの新たな体験メニューの開発及びモニターツアーの実施

南房総ならではの新たな体験メニューを開発するとともに、ターゲット別のモニターツアーを実施した。〈R1年度実績〉一般消費者向け・大学生向け・在日外国人向けモニターツアー 各1回



圃場カタログ



みかん新技術実証圃

事業名	果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業	
担当課	農林水産部生産振興課 農林水産部流通販売課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指標名	実績値	目標値
新技術・新品目導入により、施設栽培に取り組む果樹生産者	8件	3件
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった（例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）		
②地方創生に相当程度効果があった（例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）		
③地方創生に効果があった（例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合）		
④地方創生に対して効果がなかった（例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合）		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場流動化に関するアンケートから、流動化の優先度の高い圃場が明らかとなった。また、流動化の優先度の高い圃場をカタログ化し、座談会等で検討を行ったところ、優良園地の流動化に効率的であることが確認できた。しかし、令和元年房総半島台風被害により園地や生産者の状況は変わっており、今後は生産者の意向を把握しながら座談会等による検討を進め、圃場の流動化を具体的に進めていく必要がある。</li> <li>・新技術・新品目導入のモデル圃が設置され、経営改善に取り組む果樹生産者が増加した。今後は安定した生産技術定着や地域への普及を図っていく必要がある。</li> <li>・モニターツアーや受入農家の聞き取り調査等を行う中で、受入態勢の構築に加えて訪問する側へ援農などの留意点を詳細に説明することで交流を円滑に実施できることが分かった。</li> <li>・造成したツアーを今後民間企業等で商品として取り扱ってもらうために、地域のグリーン・ツーリズム関連団体等と連携し、効果的なプロモーションを行っていく必要がある。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和元年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・圃場流動化への対応として、協議会開催を含め、現地農家との座談会等を実施し、地域にあった具体的な方針や対策について意見交換を実施する。</li> <li>・栽培技術講習会や園地視察等により、モデル圃の検討を進め、技術定着や新技術・新品目の普及を図る。</li> <li>・受入側に必要なスキルの向上に資する研修会を継続して開催するとともに、先進地の視察の実施や本事業の趣旨に賛同する生産農家を地域の核として、受入農家の拡大に努める。</li> <li>・訪問側にも活動の意義や効果等について十分な理解を得て参画ができるように、地域のグリーン・ツーリズム関連団体等と連携した効果的なプロモーションを継続して実施する。</li> </ul>		

# 落花生新品種を軸とした産地活性化事業

実績額 4,915 千円 (うち交付金 2,458 千円)

## 1 事業の目的・概要

千葉県育成の新しい落花生「Qなっつ (千葉P114号)」のデビューを契機に、新品種の販売促進や種子生産への省力化機械の導入を県・市・生産者・民間事業者等と連携しながら進め、良食味落花生の生産の拡大等による落花生産地の活性化を図る取組を実施した。

## 2 事業の内容

### (1) 新品種の種子生産体制の構築

落花生新品種の種子生産拡大を目指し、一般栽培用に開発された省力化機械が採種栽培に導入できるか検証するため、採種及び収穫作業の現地実証試験を実施するとともに、成果については、実演会を通じて農業者に周知を図った。

使用播種機：播種作業機(あけマルくん)

省力化掘取機：朝日製作所APU450-2

(R元年度実績) 実演会の開催1回：参加者数68名



省力掘取反転機の実演

### (2) 新品種を活用した県産落花生のPR・プロモーション

都内イベントスペースにおいて、メディア関係者やインフルエンサーを対象としたPRイベントを開催した。また、民間事業者等とタイアップし、県産落花生をアピールした。

(R元年度実績) PRイベント：1回 (令和元年11月11日)

タイアップ：山崎製パン「Qなっつランチパック」、千葉県調理師大会、実りのフェスティバル、期間限定アンテナショップ 他



都内イベントでのPR

### (3) 新品種販売促進

#### ア 販促資材の配布

「Qなっつ」など、県産落花生を紹介する販促資材(付箋)を作成し、各種イベントで消費者に配布した。

(R元年度実績) 販促資材配布数：付箋600部

#### イ 新豆キャンペーンの開催(落花生とれたてフェア)

新豆が発売される時期にキャンペーンを開催し、県産落花生の品種紹介や県産落花生の消費動向についてアンケートを実施した。

(R元年度実績) キャンペーンプレゼント応募総数：279件



落花生フェアポスター

事業名	落花生新品種を軸とした産地活性化事業	
担当課	農林水産部生産振興課 農林水産部流通販売課	
総合戦略記載箇所	大項目：“一人ひとりの働きたい”がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立（マーケットに対応した力強い産地づくり）	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指標名	実績値	目標値
既存品種（ナカテユタカ）から新品種（Qなつつ）に置き換えた場合の販売増加額	14,450 千円	12,000 千円
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった（例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）		
②地方創生に相当程度効果があった（例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）		
③地方創生に効果があった（例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合）		
④地方創生に対して効果がなかった（例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合）		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般栽培用に開発された播種機や掘取機が採種栽培にも導入可能であることがわかったが、導入のためには収益力の向上が必要である。</li> <li>・新品種「Qなつつ」の効果的なPRができたことで、消費者の関心が高まり、好調な販売につながった。今後も継続したPRが必要である。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県単補助事業である農産産地支援事業等を活用した技術導入支援を行う。</li> <li>・県産落花生の需要を拡大するため、販売方針を踏まえ、県産落花生全体のPR方法を検討・実施していく。</li> </ul>		

# ～ “やっかいもの” から “ごちそう” へ～ 「房総ジビエ」の魅力発信プロジェクト

実績額 4,567 千円（うち交付金 2,284 千円）

## 1 事業の目的・概要

県内で捕獲されたイノシシのうち、出荷・販売を目的として処理加工された頭数は、全体の1%程度とごくわずかであり、また、ジビエ料理を提供する飲食店数やジビエの情報や魅力を発信する場も少ない状況となっている。

そのため、本事業を活用し、イノシシやシカの処理頭数の増加を目指した付帯設備等の整備や県内で捕獲されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、ジビエの調理方法などに関する講習会やジビエ料理のコンテスト、ジビエ料理を提供する飲食店が参加するフェアを開催するなど、地域活性化に向けた取組を行った。

## 2 事業の内容

### (1) 飲食店向け「房総ジビエ」講習会の開催

房総ジビエの衛生管理等について説明する講習会を開催した。

〈R 元年度実績〉参加者：6名（令和元年11月6日）



### (2) 房総ジビエコンテスト2020の開催

飲食店のシェフを対象とした房総ジビエ料理のコンテストを開催し、実食審査で選考し、最優秀賞を決定した。

〈R 元年度実績〉1回（令和2年1月20日）

### (3) 房総ジビエフェア2020冬の開催

首都圏の飲食店において、房総ジビエを使った多彩な料理を提供するフェアを開催した。

〈R 元年度実績〉参加店舗：69店舗（県内60店舗、県外9店舗）

（令和2年2月1日～2月29日）



※ 野生獣肉の利活用推進に向けた検討会議は台風のため中止

事業名	～ “やっかいもの” から “ごちそう” へ～ 「房総ジビエ」の魅力発信プロジェクト	
担当課	農林水産部 農地・農村振興課 農林水産部 流通販売課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
<b>【本事業における重要業績評価指標 (KPI)】</b>		
指標名	実績値	目標値
イノシシ肉の処理頭数	538 頭 (対前年度実績値 +324 頭)	281 頭 (対前年度目標値 +20 頭)
県内処理加工施設の販売額	21,520 千円 (対前年度実績値 +12,960 千円)	11,240 千円 (対前年度目標値 +800 千円)
房総ジビエフェアに参加したことのある飲食店 累計数	91 件 (対前年度実績値 +29 件)	60 件 (対前年度目標値 +5 件)
<b>【事業効果の判定】</b>		
①地方創生に非常に効果的であった (例: 全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった (例: 一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった (例: KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった (例: KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)		
<b>【要因・課題】 (取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県のイノシシの出荷・検査方針を見直し、手続きを一部簡略化したことで処理頭数が増加した。</li> <li>・ 「房総ジビエフェア」への参加飲食店数は、目標値を大幅に超えて増加し、取り扱い店舗の掘り起こし ができた。</li> <li>・ 野生獣の捕獲数は季節により増減するため、出荷調整できる容量の大きい冷凍冷蔵設備が必要。</li> <li>・ 獣肉の解体処理をできる人材が少ないので処理量を安定させるためには引き続き人材育成が必要。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】 (要因・課題を踏まえた具体的な取り組み (令和2年度に向けた取組の修正・改善))</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定的な獣肉の処理や出荷のために必要な機材等の整備を支援する。また、実践的な研修の開催等により、獣肉処理に携わる人材の育成を図る。</li> <li>・ ジビエフェアでの流通を促進するため、飲食店や食肉処理施設の関係者等を対象とした施設見学会や、飲食店を対象にしたジビエフェア、審査員に消費者を交えたジビエ料理のコンテストを開催することで、獣肉 (イノシシ、シカ) の需要喚起や取り扱い店舗の掘り起こしを図る。</li> </ul>		

# UIJターンによる起業・就業者創出事業

実績額 27,052 千円（うち交付金 13,526 千円）

## 1 事業の目的・概要

本県へのUIJターン希望者等の県内企業への就業を支援するため、県内企業の求人情報や暮らしの情報等を一元的に提供するマッチングサイトを運営するとともに、県内条件不利地域<sup>※1</sup>で起業する者や移住して中小企業に就業する者の支援等を実施した。

※1 県内条件不利地域 館山市、勝浦市、鴨川市、富津市、南房総市、いすみ市、東庄町、長南町、大多喜町、御宿町、鋸南町の11市町

## 2 事業の内容

### (1) マッチングサイトの運営

専用ホームページ「千葉県地域しごとNAVI」により、県内企業の求人情報や暮らしの情報等を一元的に提供。

〈R元年度実績〉移住支援金対象法人<sup>※2</sup>の登録数：41 法人

求人情報掲載法人・件数：66 法人・130 件

（上記のうち移住支援金対象法人・件数：36 法人・81 件）

※2 移住支援金対象法人「UIJターンによる起業・就業者創出事業」における移住支援金の給付に係る対象法人として県の登録を受けた法人

### (2) 移住支援金対象法人等への求人広告等作成支援業務

移住支援金対象法人等が、「千葉県地域しごとNAVI」に求人情報を掲載するにあたり、効果的な求人広告の作成等支援のため、セミナーの開催や個別指導の実施。

〈R元年度実績〉求人広告作成に係るセミナーの開催(2回)、1回は台風15号により中止

開催日	会場	参加者
8月2日	館山商工会館	20社 21名
9月10日	鴨川市文化体育館	中止
10月4日	いすみ市商工会館	13社 14名

### (3) 千葉県地域課題解決型企業支援事業補助金

条件不利地域における社会的課題解決を目指し、地域活性化関連事業分野、又は、まちづくり推進関連事業分野において新たに起業する者を対象として、補助金を交付した。

〈R元年度実績〉交付件数：1件（申請件数：2件）

### (4) 移住支援事業

東京23区の在住者又は東京都、埼玉県、神奈川県在住で東京23区への通勤者を対象に、県内の条件不利地域において、地域しごとマッチング支援事業の対象となる企業に就業するか、地域課題解決型起業支援事業の対象となる起業を行った場合に、1世帯あたり100万円（単身の場合は60万円）の移住支援金を支給する。

〈R元年度実績〉本移住支援事業に基づく移住就業者・移住起業家数0人

事業名	U I J ターンによる起業・就業者創出事業	
担当課	総合企画部政策企画課 商工労働部経済政策課 商工労働部雇用労働課	
総合戦略記載箇所	大項目：(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり 中項目：②居住地として選ばれる千葉づくり	
<b>【本事業における重要業績評価指標（KPI）】</b>		
指 標 名	実績値	目標値
マッチングサイトに新たに掲載された求人件数	130件	120件
本起業支援事業に基づく起業者数	1人	2人
本移住支援事業に基づく移住就業者数	0人	78人
本移住支援事業に基づく移住起業者数	0人	2人
<b>【事業効果の判定】</b>		
① <b>地方創生に非常に効果的であった</b> (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
② <b>地方創生に相当程度効果があった</b> (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③ <b>地方創生に効果があった</b> (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④ <b>地方創生に対して効果がなかった</b> (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合)		
<b>【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題）</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングサイト「千葉県地域しごとNAVI」の大幅改修に合わせ、掲載した求人の件数は目標値を達成したが、サイトアクセス数は伸び悩んでいることから、今後も、サイトの周知広報活動やページの内容の充実、新規掲載企業の開拓等を更に進める必要がある。</li> <li>・条件不利地域での起業への機運醸成や社会的課題の解決に資する取組への支援が更に必要になると見込まれるため、該当市町との連携を強化し、周知・啓発に努める必要がある。</li> <li>・移住支援金の支給には、条件不利地域の市町村への転入に加え、地域しごとマッチング支援事業の対象となる企業に就業するか、地域課題解決型起業支援事業の交付決定を受ける必要があることから、すべての要件を満たすことが難しい。</li> </ul>		
<b>【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内市町村や関係機関と綿密に連携し、マッチングサイト「千葉県地域しごとNAVI」の掲載コンテンツ強化により、さらに魅力的でわかりやすい県内の暮らしや企業情報を発信するサイトとなるよう運営管理に取り組む。</li> <li>・求人情報掲載企業の登録数を増やすため、広報活動等、企業の掘り起こしを積極的に実施し、併せて移住支援金対象法人向けに、効果的な求人広告の作成支援セミナーを実施する。</li> <li>・引き続き該当市町との連携を強化し、起業の促進に努める。また、該当市町には創業支援等事業計画が未策定のところもあるため、併せて策定を呼びかける。</li> <li>・都心で働きながら、自然の中で子育てやマリンスポーツができるなど、様々なライフスタイルに対応できる本県の居住地としての魅力などを広く発信し、多くの方に千葉を移住先として選んでいただけるよう取り組むとともに、マッチング支援事業の対象となる企業の開拓や、起業への機運醸成を図る。</li> </ul>		